
「GLOVIA-C V10」による 会計システムの再構築

株式会社 モトヤ

■ 執筆者Profile ■



船石善久

1996年 (株)モトヤ入社
経理部経営システム室に配属
2004年 現在 マネジメント部経理課所属

■ 論文要旨 ■

弊社はこれまでオフコン系会計システムを使用してきたが、業務効率のアップおよび柔軟な分析資料の作成を目的としてオープン系会計システムへ移行した。導入当初はユーザインターフェースが一新され戸惑いが大きかったが、慣れとともに次第に解消され「FDWH」(FinancialDateWareHouse)、「GLOVIA 関数」の活用により欲しい情報を欲しい形で直接データベースから入手できるようになり、特に管理会計関連の資料作成において大変なスピードアップを果すなどの効果を上げている。また「MS-EXCEL (マクロ機能や VBA: Visual Basic For Application 含む)」+「GLOVIA 関数」の連携を駆使し、独自に部門間配賦処理や販売データからの仕訳データ取込みの仕組みを作成するなどして業務の効率化を進めている。新会計システムを中心として、部門や立場の異なる人間それぞれが最適な情報を入手・分析し、日々の行動へ反映させ社業の発展という成果を生み出すことが最終目標である。

■ 論文目次 ■

1. はじめに	《 3》
1. 1 当社概要	
1. 2 会計システム再構築の背景	
1. 3 新システム選定	
2. システム概要	《 3》
2. 1 ソフトウェア	
2. 2 ハードウェア	
2. 3 使用環境（インフラ等）	
3. システムの評価	《 4》
3. 1 前システムとの比較	
3. 2 新システムの問題と対応	
4. 導入の効果	《 9》
4. 1 システム管理上の効果	
4. 2 運用上の効果（「GLOVIA関数」の活用）	
5. 今後の展開	《 12》
5. 1 標準機能の活用	
5. 2 電子帳簿保存への対応	
5. 3 社員への勉強会の実施	
6. むすび	《 12》

■ 図表一覧 ■

図1 接続環境イメージ	《 4》
図2 組織情報保守画面	《 5》
図3 振替伝票入力画面	《 7》
図4 仕訳入力チェックリスト1	《 8》
図5 仕訳入力チェックリスト2	《 8》
図6 五ヵ年経費実績表	《 9》
図7 本支社勘定照合表	《 10》
図8 配賦テンプレート	《 11》
図9 VBA：配賦情報出力	《 11》
図10 テキストファイル：配賦情報	《 11》

1. はじめに

1. 1 当社概要

当社は東京、大阪を両本社とし横浜、埼玉、千葉、名古屋、京都、福岡に支社を置いて印刷機材の販売、組版システムの製造・販売、フォントの制作・提供を行っている。平成16年3月現在、資本金1億円、年商91億円、従業員数170名という会社規模である。

1. 2 会計システム再構築の背景

当社は1980年代初頭に富士通会計システム「CAPSEL」を導入した後、数度のバージョンアップを経て1996年からは「SuperCAPSEL」を利用してきた。販売システムを同じ富士通製のオフコンシステムで構築していることもあり、販売系との連携はもちろんのこと「正確な財務諸表の作成」、「システムの安定性」において全く不満はなかった。しかし昨今の厳しい経済環境下で「会計処理のスピードアップ」、「経営陣や各部門など様々な方面からの要求に対する柔軟な対応」が必要不可欠となる中で具体的にいえば

- ①管理会計資料作成時にバッチ処理が必要
- ②組織変更への対応や組織図外（いわゆる仮想組織）での集計が困難
- ③蓄積されているデータの2次利用が困難

という点で旧システムに限界が見えていたのも事実であった。その中で「SuperCAPSEL」の保守打切りのタイミングにあわせて2003年7月「GLOVIA-C V10 会計情報システム」（以下「GLOVIA-C V10」という）へ移行した。

1. 3 新システム選定

スタンドアロンでの使用を前提とした財務管理ソフトから会計事務所向けのものまで幅広く資料を集め検討を行ったが、最終的には前システムからの移行に優位なものという点で「GLOVIA-C V10」を採用した。実際、勘定科目情報・各種残高・部門情報・明細情報にいたるまでデータ移行に関しては全くといっていいほど当社側で時間や労力をかけることはなく、それ以外の社員向けオペレーションマニュアルの作成や運用に合わせた入力画面のカスタマイズ等に注力できた結果、システム切替えに大きな混乱はなかった。その他の選定条件には複数法人が管理できること、CSVデータの入出力ができること、WAN環境下での使用に対応していること、などがあったがこれらは市販されている大抵の会計ソフトで可能であった。

2. システム概要

2. 1 ソフトウェア

システム名称：富士通「GLOVIA-C V10 会計情報システム」。

バージョン等：V10L20 (Y030331)

データベース：SynfoWARE

その他：ListCREATOR, ListWORKS（電子帳票関係）等

2. 2 ハードウェア

<サーバ>

PRIMERGY F250 (Xeon1.8GHz) Win2000 Server SP4 アレイ

メモリ : 1GB

HDD : 18GB×3

<クライアント>

OS : WindowsXP Professional, CPU : Celeron1.2GHz, メモリ : 512MB

一部 Windows2000 Professional も利用している。

2. 3 使用環境 (インフラ等)

サーバは大阪本社に設置, クライアントは各事業所で計 15 台。(別法人である関連会社も大阪のサーバで運用) 事業所間の通信回線は ADSL を足回りとした IP-VPN である。図 1 はそのイメージ図である。

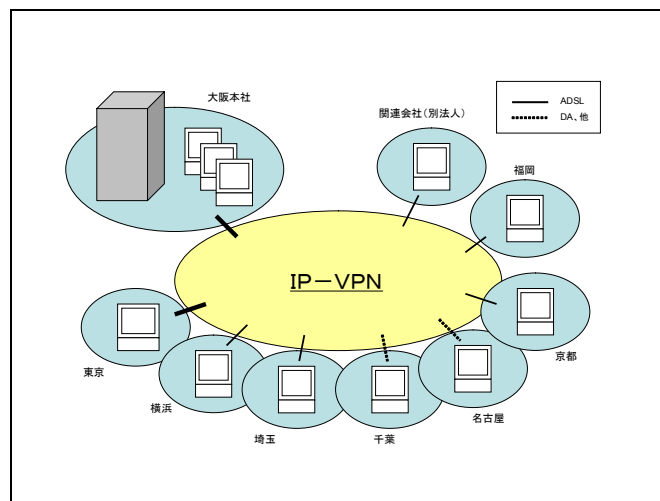


図 1 接続環境イメージ

3. システムの評価

3. 1 前システムとの比較

前システムからの課題を中心に比較してみたい。

3. 1. 1 残高複写処理

<前システム>

財務会計と管理会計がシステム上明確に区別されており, 例えば管理会計側に属する「経費予算実績表」を出力する場合, 「残高複写処理」という日々の伝票入力により蓄積される財務会計データを元に, 管理会計用のデータを更新する処理が必須であった。これにかかる時間はデータ件数が増える期末近くになると 5 分以上を要した。特に決算時には整理仕訳が入るたびにこれらの処理を繰り返すことになり時間的ロスが大きかった。

< 「GLOVIA-C V10」 >

運用上財務会計と管理会計を意識することがなくなり、伝票入力後即座に管理会計帳票を出力できるようになった。

3. 1. 2 組織変更時の対応

< 前システム >

オフコン端末機で組織情報を作成するのだが操作性が悪く、習熟したオペレータでなければ思うような組織を登録することは困難であった。

< 「GLOVIA-C V10」 >

オープン系システムの特徴である右クリックやドラッグ&ドロップが使用できるなど、操作性が飛躍的に向上した。図2は組織情報の保守画面。

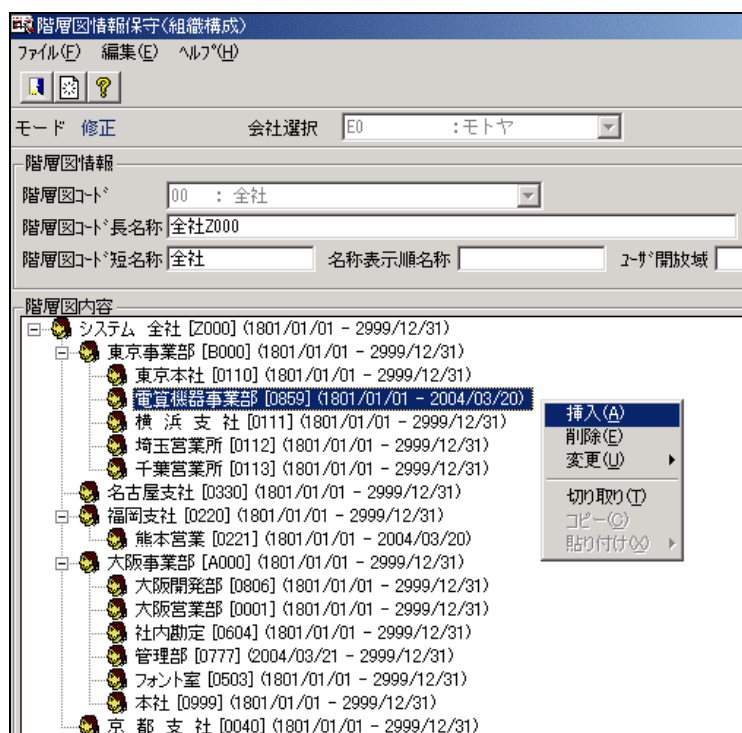


図2 組織情報保守画面

3. 1. 3 表計算ソフトとの連携

< 前システム >

CSV ファイルへの出力機能がなく表計算ソフト（当社では EXCEL を使用）との連携は非常に困難であった。CSV ファイルへ出力しようとするれば「SF ファイルへ出力」（COBOL でプログラム）→「CSV ファイルへ変換」（オフコンのオプション機能利用）→「PC 側から ftp でファイル取得」という順序を経なければならなかった。そのため

当社では一度帳票を出力した後、それを見ながら手作業で EXCEL へ入力するという運用をとっていた。

< 「GLOVIA-C V10」 >

CSV ファイルへの出力を標準機能として有している。また「GLOVIA 関数」という EXCEL 上で利用できる関数が提供されている。これは EXCEL で通常使用する関数と同じように「=」で始まる計算式を指定すると「GLOVIA-C V10」のデータベースよりデータを取得できる機能であり、非常に重宝しているが詳細は次章「4. 導入効果」とする。

3. 2 新システムの問題点と対応

当社が「GLOVIA-C V10」の採用を決定した当時は大きなバージョンアップを完了してあまり時間がたっていなかった。導入・移行に関しては上述の通り大きな問題はなかったが、導入後実際に日々の業務で使い始めると、さらなる熟成が必要だと思われる点がいくつか見つかったので、それらを詳しく検証したい。

3. 2. 1 伝票入力

弊社はいわゆる伝票会計を採用しており、記入された仕訳伝票をオペレータが入力するという運用になっている。前システムではオフコン系のシステムであったため、習熟したオペレータが複数の伝票を画面を見ずにテンキーのみで入力していくのには非常に都合がよい作りであった。「GLOVIA-C V10」ではグラフィカルな画面で見栄えがよいがマウス操作が必要であったり、カーソルが位置付く順番をユーザは自由に変更することができず、SE 作業が必要になっている。

この件に関する問題は、SE 作業にて使い勝手が良いように入力画面を変更することで対応した。具体的には「外貨」に関する項目など不要な情報の排除、そしてカーソルが移動する場所、順番の編集などである。図3参照。

図3 振替伝票入力画面

3. 2. 2 入力チェックリスト

前システムでは、借方と貸方に分かれた仕訳伝票形式のプルーフが出力されていたため読み合わせなどのチェック作業がやり易かったが、「GLOVIA-C V10」で提供されているチェックリストはダンプリスト形式で、出力すると1件の伝票でもA4サイズで8ページ出力される。これは1件の取引に多くの情報を持たせることができるため、その分出力される項目が多くなっているのであるが、出力する項目を事前に選択できるようになっていないため、毎回 EXCEL 上で編集しなければならない。また貸借の区別が困難な点も運用上支障がある。図4参照。

図4 仕訳入力チェックリスト1

この件に関する問題は、必要な項目のみが表示されるように、また貸借の区別が容易にできるように、独自にVBAプログラムを作成し対応した。図5参照。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	E0	モトヤ	009606	船石 善久							
2											
3											
4	伝票日付	伝票番号	行番号	部門名	科目名	細目名	借方金額	部門名	科目名	細目名	貸方金額
5	2004/05/20	900001	1	大阪営業部	<販>社内家賃	その他					
6	2004/05/20	900001	1					本社	社内雑収入	社 内 家 賃	
7	2004/05/20	900002	1	大阪開発部	<販>社内家賃	その他					
8	2004/05/20	900002	1					本社	社内雑収入	社 内 家 賃	
9	2004/05/20	900003	1					本社	社内雑収入	社 内 家 賃	
10	2004/05/20	900003	1	京 都 支 社	<販>社内家賃	その他					
133	2004/05/20	900065	1	大阪開発部	<管>給与負担金						
134	2004/05/20	900065	1					管理部	給与負担金		
135	2004/05/20	900066	1					管理部	給与負担金		
136	2004/05/20	900066	1	本社	<管>給与負担金						
137	2004/05/20	900067	1	フロント室	<管>給与負担金						
138	2004/05/20	900067	1					管理部	給与負担金		
139	2004/05/20	900068	1	大阪営業部	<管>給与負担金						
140	2004/05/20	900068	1					管理部	給与負担金		
141	2004/05/20	900069	1	大阪開発部	<管>経費負担金						
142	2004/05/20	900069	1					管理部	経費負担金		
143	2004/05/20	900070	1	本社	<管>経費負担金						
144	2004/05/20	900070	1					管理部	経費負担金		

図5 仕訳入力チェックリスト2

データ入力に関してはS E作業にて対応をとったが、入力済みデータの照会・確認・分析に関する問題については、「GLOVIA 関数」やVBAで克服している。正確にはマイナス面を補うだけでなく色々な処理の効率化に「GLOVIA 関数」を役立てているが、その具体例を次章（4. 導入効果）で述べる。

4. 導入効果

4. 1 システム管理上の効果

専用端末が不要であり、事務処理用・グループウェア用に配布しているパソコンを利用できるので、操作のために机を移動することがなくなった他、導入コストや保守費用でメリットがあった。

また部門の新設や統廃合などへの対応に時間と労力がかからなくなった点は既に述べたとおりである。（3. 1. 2 組織変更時の対応）

4. 2 運用上の効果（「GLOVIA 関数」の活用）

「GLOVIA-C V10」の魅力は「GLOVIA 関数」にあると当社は考える。EXCEL 上にデータベースから直接データを展開することができるからである。「GLOVIA 関数」によってユーザと会計情報との距離が一気に縮まったこと、および資料作成への工数の大幅削減、そして社内政策や業務に対するシステムの柔軟性拡大が導入効果だと認識している。当社における「GLOVIA 関数」の活用例の一部を下記に挙げる。

4. 2. 1 五カ年経費実績表

C4 のセルに部門コードを、C5 と D5 のセルに期間の開始と終了年月を入力すると予め入力している科目コード（B 列）に対応する実績を表示する。「GLOVIA 関数」を使った最もシンプルな例といえる。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	◆五カ年経費実績表							
3		会社	E0					
4		部門						
5		年月	2003/04	~	2003/09			
7								
8	No.	科目cd	科目名	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
9	1	83115	給料手当					
10	2	83121	賞与					
11	3	83138	退職金					
12	4	83144	法定福利費					
13	5	83159	給料手当計					
14	6	83262	広告宣伝費					
15	7	83256	キャンペーン費					
16	8	83222	市内交通費					
17	9	83223	支社出張費					
18	10	83227	旅費交通費					
19	11	83229	他社出張費					
20	12	83230	海外出張費					
21	13	83232	他 交通費					
22	14	8322A	交通費合計					
23	15	83180	車両費					
24	16	83272	飲食交際費					
25	17	83273	贈答交際費					
26	18	83274	GF交際費					

図6 五カ年経費実績表

4. 2. 2 本支社勘定照合表

予めリーグ戦の対戦表のような表（図7参照）を作成し、上段と下段の数字が一致するかをチェックする。C2 のセルに年月を入力すると指定した期日での残高を表示させることができる。（「D5:G20」に GLOVIA 関数を設定している）

	A	C	D	E	F	G	Q
2		2003/07					上段：引渡／下段：引取
4		部門名	東京	横浜	埼玉	千葉	合計
5		東京本社	0	500	3,000	0	3,500
6			0	500	5,000	0	5,500
7			0	500	3,000	0	3,500
8			0	500	5,000	0	5,500
9		横浜支社	30,000	0	0	0	30,000
10			80,000	0	0	0	80,000
11			30,000	0	0	0	30,000
12			80,000	0	0	0	80,000
13		埼玉営業所	73,000	0	0	250	73,250
14			1,465,000	0	0	1,050	1,466,050
15			73,000	0	0	250	73,250
16			1,465,000	0	0	1,050	1,466,050
17		千葉営業所	5,100	0	0	0	5,100
18			804,421	0	0	0	804,421
19			5,100	0	0	0	5,100
20			804,421	0	0	0	804,421
57		引渡合計／当	108,100	500	3,000	250	111,850
58		引渡合計／累	2,349,421	500	5,000	1,050	2,355,971
59		引取合計／当	108,100	500	3,000	250	111,850
60		引取合計／累	2,349,421	500	5,000	1,050	2,355,971

図7 本支社勘定照合表

こちら「五カ年経費実績表」と同様シンプルな例ではあるが、以前のシステムならある業務に特化した個別資料を新たに作成する場合は、システム管理者による作業でなければ対応できなかったが、新システムではある程度 EXCEL を操作できるユーザなら各自で作成できるようになった。

4. 2. 3 配賦処理

こちらは「GLOVIA 関数」を用いた応用例である。E4 のセルに年月日を指定するとその月度実績（または予算）を E 列に表示する。（F 列に「*」を指定した科目は予算を表示する。当社では社内家賃等が該当する。）これが配賦元となる金額である。G 列から R 列までは配賦先の情報を示す。A 列と G 列にある「No」項目は配賦元と配賦先の情報を結びつけるキーであり EXCEL の「VLOOKUP」関数の検索値に指定している。これを予算通り配賦するのかもしれない複数部門で予め定められた割合で配賦するかを P 列で指定してあり、結果の配賦額は R 列に表示される。（図8参照。）この情報を元に VBA プログラム（図9参照）で「GLOVIA-C V10」に取込むことができるフォーマットの CSV ファイルへ出力する。図10は作成されたファイルである。

◆配賦元情報				◆配賦先情報											
会社E0				ユーザID→ 009606											
伝票日付→ 20040520															
				↓「配賦元情報」該当Noを入力											
配賦元情報				借方				貸方							
No	部門	科目cd	科目名	元No	部門	科目cd	科目名	部門	科目cd	科目名	配賦率	配賦額	実配賦額		
1	0001	83316	社内家賃	1	0001	83316	100 社内家賃	0999	87982	640 社内雑収入	100.0%				
2	0806	83316	社内家賃	2	0806	83316	100 社内家賃	0999	87982	640 社内雑収入	100.0%				
3	0040	83316	社内家賃	3	0040	83316	100 社内家賃	0999	87982	640 社内雑収入	100.0%				
4	0110	83316	社内家賃	4	0110	83316	100 社内家賃	0110	36216	本社資金	100.0%				
41	0777	83159	給料手当	41	0806	84801	給与負担金	0777	84801	給与負担金	4.4%				
				41	0999	84801	給与負担金	0777	84801	給与負担金	5.0%				
				41	0503	84801	給与負担金	0777	84801	給与負担金	5.1%				
				41	0001	84801	給与負担金	0777	84801	給与負担金					
42	0777	83373	販売費計	42	0806	84818	経費負担金	0777	84818	経費負担金	4.4%				
				42	0999	84818	経費負担金	0777	84818	経費負担金	5.0%				
				42	0503	84818	経費負担金	0777	84818	経費負担金	5.1%				
				42	0001	84818	経費負担金	0777	84818	経費負担金					
43	0999	84840	管理員負担金	43	0999	84840	管理員負担金	0001	84840	管理員負担金	100.0%				

図8 配賦テンプレート

```

(General)
-----借方項目
'入力番号
No1 = Str(Den_No)
'起票社員cd
KtnCD = Worksheets("配賦元情報").Cells(3, 5).Value
'起票部門cd
KbuCD = "2000"
'承認社員cd
StnCD = KtnCD
'承認日付
MyDate = Format(Date, "yyyymmdd")
yyyy = Left(MyDate, 4)
mm = Left(MyDate, 6)
dd = Right(MyDate, 2)
SDate = yyyy & mm & dd
'承認状態
SVkbn = "0"
'仕訳種別区分
SWkbn = "00"
'伝票日付
DDate = Worksheets("配賦元情報").Cells(4, 5).Value
'伝票番号
No2 = No1
'操作禁止区分
DSkbn = "0"
'行No
No3 = "1"
'明細貸借区分
DMkbn = "0"
'科目cd
KakCD = Worksheets("配賦元情報").Cells(6yo, 9).Value
'会計部門cd
BuCD = Worksheets("配賦元情報").Cells(6yo, 8).Value

```

図9 VBA : 配賦情報出力

元No	部門	科目cd	科目名	借方	貸方	配賦率	配賦額	実配賦額		
000001	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900001	0	1	0
000001	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900001	0	1	1
000002	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900002	0	1	0
000002	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900002	0	1	1
000003	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900003	0	1	0
000003	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900003	0	1	1
000004	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900004	0	1	0
000004	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900004	0	1	1
000005	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900005	0	1	0
000005	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900005	0	1	1
000006	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900006	0	1	0
000006	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900006	0	1	1
000007	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900007	0	1	0
000007	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900007	0	1	1
000008	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900008	0	1	0
000008	009606	2000	009606 20040531	0	00	20040520	900008	0	1	1

図10 テキストファイル : 配賦情報

配賦処理については「GLOVIA-C V10」にも標準機能として存在するが、「配賦元情報」と「配賦先情報」、そして「それら両方を結びつけるための情報」という3つの異なるマスタを別個に登録・メンテナンスしなければならず、複数の配賦情報を扱う場合に複雑であるため独自に作成した。

4. 2. 4 「GLOVIA 関数」の可能性

「GLOVIA 関数」は「五カ年経費実績表」や「本支社勘定照合表」など単に残高を表示させるだけの使い方から、VBA との連携まで広く応用できる点が非常に有効だと考えている。実際当社では平成16年度より販売部門の変動費実績に応じて負担金を課する政策を実施しているが、そういった場合でも上記配賦表にて容易に対応ができた。またこれ以外に、実際の会計データを使いながらのシュミレーションを簡単に行うことも可能である。

「GLOVIA-C V10」に限らずパッケージソフトでは個々の企業への細かな対応は限界があるが、「GLOVIA-C V10」に存在するそういった問題点は「GLOVIA 関数」にて補完している。

5. 今後の展開

今後の展開として次の3点を中心に考えている。

5. 1 標準機能の活用

提供されている機能を使用するのは当然のことではあるが、旧システム時代には使用していなかった（提供されていなかった）機能を「GLOVIA-C V10」で運用するに至っていない。具体的にいえばキャッシュフロー計算、消費税申告書関連などである。

5. 2 電子帳簿保存への対応

既に述べた通り当社では伝票会計を採用している。すべての原点は仕訳伝票であり、過去の取引の詳細を調べる場合や決算時などに伝票綴りを繰ることが非常に多い。「GLOVIA-C V10」では電子帳簿に関する機能を有しているため、いずれは伝票レスの運用への移行を考えている。

5. 3 社員への勉強会の実施

「GLOVIA 関数」を中心に対象者を経理部門に限定せず実施したい。欲する人が即時に欲しい形で取得できれば情報は最大限の効果をもたらす。上述の通り EXCEL 上に指定した期日・期間の予算や実績をデータベースから取得し、そこから EXCEL の機能で自由に加工・編集ができるので、それぞれの立場でこの「GLOVIA 関数」を活用できるように支援していきたい。「GLOVIA-C V10」をより効果的に使えるかどうかはこの部分にかかっていると認識している。

6. むすび

様々な業務をシステム化することの目的は、省力化・効率化により会社の利益増大につながることであることはいままでもない。今回の「GLOVIA-C V10」への移行では財務会計分野での効率化だけでは真の完成を見ないと考える。現在は事務処理の効率化を進めることができているが、今後は経営者の意思決定に直結する管理会計分野での活用を重点的にを行い、社業の発展という形で成果を上げるように持っていきたい。